

# 転んだあとの杖

銀座コクリコ 木村久理子



ある朝、銀座のクリニックに出勤途中、両手に荷物を抱えて急ぎ足で三原橋（歌舞伎座横）の交差点を渡ろうとしたところ、アスファルトの段差にハイヒールがひっかかってしまい、顔から転倒して頬を擦りむくという痛い出来事に見舞われてしまいました。私は背が低いので、ハイヒールは、必須のアイテムなのです。それにしても痛かった。

その日、クリニックのオペ室でスマートリポサクション（脂肪溶解レーザー）を使用する脂肪吸引術）を行っていた時に、三原橋で転んだ話を弟の麻酔科医にしたところ、「年をとると、とっさの時に体の反応が出来なくなるんだよね」と、同情はおろか、少々不快な方向に話を持っていかれてしまいました。

そのような折、私が通っている六本木にあるトレーニングジムのイベントで、ジムでよくお見かけする著名ジャーナリストをゲストとして、トークショーが開催されました。癌を患って70歳を過ぎた自分だけでも、年をとると何でもないところで転ぶようなことが多くなり、自宅の廊下の絨毯につまずいた自分をどうにかしようと思って、このジムに通うようになったと言っておられ、他人事ではないと思ひ、ドキッとさせられました。

トレーナーの先生いわく、人には、motor skillと云って、もともと備わっている運動技能があるそうですが、子供の頃は無意識にその能力を駆使して、俊敏な動作を簡単に習得するわけですが、大人になるにつれ、その能力は使われなくなり、衰えていくこととなります。つまりいたり転んだりするのは、少なくとも自分の脳でのイメージと実際の動作が一致していないわけですから、外界の事情はどうであれ、たしかに老化の兆候なのかもしれません。どうやら私達は、年を取るにつれ、かつて持っていた能力を意識して鍛えることが必要となってくるようです。

テレビでオリンピックを観戦していても、同じ人間とは思えないような技やスビードの祭典が繰り広げられています。彼らアスリートは、備わっている能力を使い続けただけでなく、さらに発展させた結果だと言えるでしょう。

## 再生能力を取り戻すこと

実は私が携わっている美容医療の世界でも、かつて備わっていた機能を取り戻す治療を行っている点が多々あります。

美容の若返り治療も、昨今、各分野で研究が進んでいる再生医療も、究極的には「人間の能力の再獲得」と言えるのかもしれない。

若い頃は、たとえ真つ黒に日焼けしても体に備わった修復・再生機能により、しみやしわは残りませんでした。私達が子供の頃は、日焼けすることが健康の象徴のようにも言われていましたが、二十代が終わり、油断していたところに、はたと気づけば、そこかしこに蓄積された紫外線の爪痕を発見してしまうことになります。

しみやしわが残るようになるのは、皮膚のターンオーバー（新陳代謝）が滞っている証拠です。鏡をよく見るとムククの絵のように叫びたくなります。

地下鉄に乗っていて、窓に映った自分の顔に深く刻まれた陰影に気づいて「なるほど、これが、ほうれい線。頬の中央に斜めに走る、これが通称「ゴルゴ線ね・」なんて、観察している場合ではありません。それは、真皮のコラーゲンの再生が、破壊に追いついていない証拠、皮膚のたるみです。皮膚がスカスカの状態になると、頬の脂肪も高い位置で保持できなくなり、脂肪は、年齢、重力と共に徐々に下垂し、フェイスライン（頬から顎にかけての輪郭）が崩れていきます。

では、しわ、しみ、たるみ、これら顔の老化現象を美容医療ではどのように治療するのでしょうか？ もちろん、様々な方法がありますが、今、一番好まれている方法は、腫れや赤みなどの残らないレーザーや「光治療器」による、しみしわの改善や、赤外光や平などによるタートニング（引き締め）治療です。

いずれもレーザーや光の特性を生かして、例えば、しみ取りならば、メラニン色素への熱吸収を促し、痂皮（かさぶた）を形成させ、異物反応を誘導することにより、しみだけが皮膚から排除される状態を人工的に作り出します。

しわやたるみであれば、真皮の線維芽細胞というコラーゲンやエラスチンを生成する細胞を刺激し、活性化し、組織の再生を促します。要は、老化のメカニズムの逆を実行するのです。便利な世の中になりましたよね。しわ、しみ、たるみ、今の医療では、パソコンのリセットボタンを押すように、なかったことに出来るのです。

現代に生きる私達は、先人の知恵と技術により、多少の努力や手間ひまをかければ、年齢を超越して、若く美しく働いていられる年月を長くすることが可能になっています。少子高齢化も進んでいます。同時に美容や再生医療もますます勢いで発展していますから、ある意味、人間自身もリサイクルされて、長く健やかに生かされている時代ということかもしれません。

私の頬は、その後、かさぶたが出来て剥がれ、皮膚が再生されました。高濃度のビタミンCとトランスキサム酸の内服、それに美白剤を使い、炎症性の色素沈着も治しているところ。美容の治療は、女性にとって転んだ後にも先にも大事なことです。

それにしても、三原橋の交差点は、交通量も多いし、色んな意味でデンジャラスです。つい先日、私は、黒のベレー帽らしきものを斜めにかぶって銀座側からさつそうと歩いてくる年配のおじ様がいるなと思っていたら、それはベレー帽ではなくて頭頂部から斜めにずれたカツラだったのです。おじ様は、頭部の異変に気づき、信号を渡りながら、カツラを所定の位置に戻していました。私はびびくりして思いっきり見つめてしまいました。

「このおじ様もうちのクリニックに相談いらっしやればいいのに」なんて思っていました。人にはやめられないアイテムがあるものですね。私も懲りずに今もハイヒールを履いて銀座を闊歩しています。